

アルザフォーラム2023を開催します！

今年は「分かりあうことから始めよう～一人ひとりの幸せのカたち～」をテーマに、11月11日(土)～19日(日)まで開催します。ぜひ！ご参加ください！

◇基調講演「男性学の視点から誰もが生きやすい社会を考える」

講師：田中 俊之さん(大妻女子大学人間関係学部 准教授)

日時：11月12日(日) 13:30～15:30

定員：抽選 200人 対象：小学生以上 保育あり

会場：万代市民会館 6階 多目的ホール



◇分科会「その生きづらさはどこからきてる？～見えないしほりを考える～」

講師：虎岩 朋加さん(愛知東邦大学教育学部 准教授)

日時：11月19日(日) 13:30～15:30

定員：抽選30人 保育あり

対象：ジェンダーについて興味がある方など誰でも

会場：万代市民会館 4階 403・404 大研修室

◇大学連携事業「いろんな年代で考えよう！ジェンダーについて」

講師：里見 佳香さん(新潟青陵大学福祉心理子ども学部 准教授)

日時：11月26日(日) 10:00～12:00

定員：抽選 25人 保育あり

対象：ジェンダーについて興味がある方など誰でも

会場：万代市民会館 4階 403・404 大研修室

◇DVD 上映会

①種まく旅人 -華蓮(ハス)のかがやき-

日時：11月17日(金)14:00～16:00

②老後の資金がありません！

日時：11月18日(土)10:00～12:10

①②ともに

定員：抽選 200人 対象：小学生以上 保育あり

会場：万代市民会館 6階 多目的ホール



©2020 KSC エンターテイメント

◇ワークショップ、お申込みについて

詳細はホームページをご覧ください。



アルザフォーラム 2023
←ホームページはこちら



メール配信「アルザ情報」

講座情報等を月1回のペースで配信しています！ぜひご登録ください。



alza@city.niigata.lg.jp

←件名を「アルザ情報希望」としメールを送ってください！

本文は不要です。受信後、確認の返信メールを送付します。

土日及び祝休日を除き、3日後までに届かない場合は、お手数ですがアルザにいがたまでご連絡ください。



情報図書室より男性の生きづらさに 関する本をご紹介します



不自由な男たち その生きづらさは、どこから来るのか
小島 慶子、田中 俊之／著 祥伝社(祥伝社新書)

男性は競争するよう育てられ、働くのが当たり前と言われてきました。こうした男性の不自由さ、生きづらさについて様々な角度から議論した対談集です。男性にはまった枠を壊し、仕事以外の領域を広げる、古い縛りを捨てて自分の物語を自分で紡ぐことが大切だと伝えています。



男が心配
奥田 祥子／著 PHP 研究所(PHP 新書)

男性の声なき声をすくい上げたいという著者の思いから、約1000人の男性にインタビューを行い、様々な悩みの事例を紹介しています。恋愛・結婚、出世競争、育児や介護、定年後の生き方といった問題に苦悩する姿が克明に記されています。



これからの男の子たちへ「男らしさ」から自由になるためのレッスン
太田 啓子／著 大月書店

男の子2人を育てる弁護士ママがジェンダー、性教育、セクハラ、性暴力についていかに教えていくかを説いた子育て論です。これからの男の子たちには、「男らしさ」の呪いから自由に生きてほしい、そして性差別や性暴力を許さないと男性だからこそ声をあげてほしいと述べています。



マンガでわかる男性学
ジェンダーレス時代を生きるために
水島 新太郎／マンガ・文 行路社

男はなぜ「男らしさ」に縛られるのか？男であることはつらいことなのか？など男性にまつわる様々な問題を8つのマンガ作品と文章解説でわかりやすくひも解いています。男女問わず幅広い年齢層の人に男という性について考えるきっかけになればと著者は述べています。



アルザにいがた情報図書室は、
新潟市図書館のカードで貸出ができます。

開室時間：月～金曜日 10:00～17:30

休室日：土日および祝休日、第1水曜、第4月曜(第4月曜が休日の場合は翌日も)、年末年始(12/29～1/3)、蔵書点検期間



男女平等をともにすすめる情報紙

2023年10月 vol.56

特集：男性の生きづらさについて



- 男は弱音を吐いてはいけない。
- 悩みがあっても相談するのをためらってしまう。
- 「男らしさ」って何だろうと思う時がある。

こんな風に思ったことはありませんか？
詳細は次ページへ

アルザにいがた

発行／新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」
新潟市中央区東万代町 9-1 万代市民会館内
電話：025-246-7713 8:30～17:30 土日及び祝休日を除く
URL: <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/>
E-mail: alza@city.niigata.lg.jp



「アルザ」は、「志気を高める」、「高揚」という意味のスペイン語の「alza(アルサ)」が語源。開館5周年の公募で決定、センターが男女共同参画について意識を高める場であってほしいという願いが込められています。



アルザにいがた X (旧 Twitter)
講座情報や新着図書情報、職員が日常で感じたジェンダーに関することをつぶやいています。コメントや♡(いいね)、お待ちしております！



情報紙のご意見・ご感想をEメールでお寄せください。



男性の生きづらさについて ~ジェンダーの視点で考える~



活躍する女性をご紹介します②3

◆「らしさ」、「あるべき」に囚われていませんか

皆さん、無意識に「男は強くなければならない」、「弱音を吐いてはならない」と思い込んでいませんか。近年、多くの男性たちが「男の生きづらさ」を自覚するようになり、**固定的な性別役割分担意識**など社会的、文化的に作られた価値観がその生きづらさの一因になっていると言われています。

こんな思い込みはありませんか？

長男だから...

家を継ぐのは男性であるべきだ

男性は人前で泣くべきではない

共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ

男性は仕事をして家計を支えるべきだ

組織のリーダーは男性の方が向いている

男性は結婚して家庭をもって一人前だ

デートや食事のお金は男性が負担すべきだ

男性なら残業や休日出勤するのは当たり前

男は強くあるべきだ

一家の大黒柱

内閣府男女共同参画局「令和4年度性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査結果（概要）」では、性別役割分担意識について「**男性は仕事をして家計を支えるべきだ**」、「**女性には女性らしい感性があるものだ**」の項目に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答が**男女とも45%前後あり、1・2位**となっています。

全項目平均では、**性別役割の「意識」は男性が強く、伝統的な役割観に自身がとらわれていることに気づいていない可能性がうかがえる結果**となっています。**男性だから、女性だからこうあるべき**という風潮が**社会に根強く残っている**ことがわかります。あなたとあなたの周りはどうでしょうか。

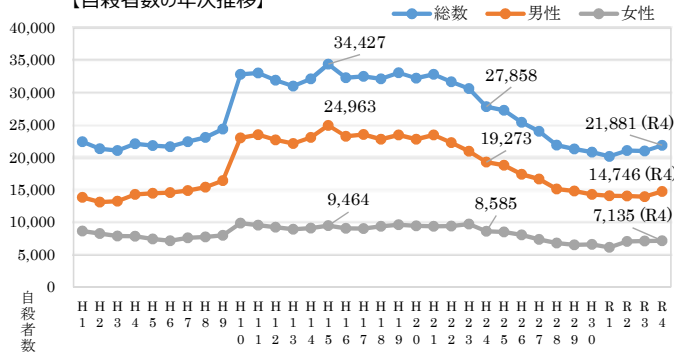
詳しい調査結果は内閣府男女共同参画局 HP をご覧ください。
https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r04.html



◆ストレスを溜め込まないで

厚生労働省の調査では、令和4年の男性の自殺者数は14,746人、女性は7,135人で、**男性は女性の約2.1倍**となっています。

【自殺者数の年次推移】



出典：厚生労働省「令和4年中における自殺の状況」：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

なぜ男性が多いのでしょうか。子どもの頃から「男の子なんだから泣かない」などのような言葉を聞いてきた経験によって、**知らず知らずのうちに弱音を吐きづらく、悩みを打ち明けづらくなっているのも一つの原因**であると考えられます。

気持ちを押し込めすぎると、自分の気持ちに鈍感になりやすいと言われています。すぐに答えが出ないような悩みでも、**自分の気持ちを話す機会を持つこと**で、焦っている気持ちが和らぐ、視野が広がる、などのポジティブな効果をもたらします。

悩みやストレスを感じた時は、あなたの家族、パートナー、親しい友人などに話を聞いてもらったり、また、公的機関にも相談窓口がありますのでお気軽にご連絡ください。

お気軽に
どうぞ

アルザにいがた「男性電話相談」

職場の人間関係、家族のこと、夫婦のこと、DV、生きかたなどについて男性の相談員が相談に応じます。

第4火曜日 18:30~21:00 電話：025-246-7800
 (第4火曜日が祝日の場合はホームページでご確認ください。)

◆誰もが生きやすい社会に

男性と同様に女性も「らしさ」、「あるべき」といった**無意識の思い込み**や**固定的な性別役割分担意識**が**生きづらさの一因**となっています。自分らしく生き生きと過ごせるよう、まずは、**自分自身への「しほり」に気づくことが大切**です。**自分の中にある「〜べき」から離れてみませんか。**

今回は、西蒲区松野尾のビニールハウスの居場所「marugo-to（まるごと）」の運営団体代表の岩崎典子さんをご紹介します。

【PROFILE】



燕市出身。第一子出産まで市内の会社に勤務。出産後、ホームヘルパー養成講座を受講して福祉の世界へ入り、訪問介護事務所でサービス提供責任者、管理者を経て退職。6年前に「人生の伴走者」を理念に掲げ、法人を立ち上げる。独立型の介護支援専門員として仕事をする傍ら、多機能型拠点として、ボランティア団体「marugo-to(まるごと)」を平成30年に立ち上げ、社会福祉協議会の地域共生型あがり事業を受託。また、民生委員・児童委員としても地域の方々と共に活動している。

■「marugo-to（まるごと）」を立ち上げたいきっかけを教えてください。

夫が若年性認知症と診断された夫婦と出会い「夫が自分らしく輝き続けられる居場所を創ってほしい」と言われたことをきっかけに、すべてを解決できる場所がないなら「創ろう」と、社会福祉協議会と共に創った居場所が「marugo-to(まるごと)」です。

また、平成25年に家族介護者と共に認知症のことを広く知ってもらいたいと「認知症カフェ」を立ち上げたが、「月1回の開催で何が解決できるのか」と疑問を抱くようになり、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターなどと出会い、それぞれの悩みを共有していたこともきっかけのひとつです。

■居場所「marugo-to（まるごと）」の活動内容を教えてください。

「指示なし・義務なし・ノルマなし」をモットーに自分のやりたいこと、例えば、野菜を育てたり、ピザ窯を作ってピザを食べたり、角田山を眺めながらお茶を飲んだり、など自由に過ごせる居場所です。「何をしたいかわからない」という方にもこの居場所の過ごし方の提案をしています。活動日は毎週月曜日9時半~12時（夏季は16時~18時）で、活動場所は使わなくなった農業用のビニールハウスです。参加費は300円（縁）です。誰もが自由に気軽に参加できます。

■活動を通して見方や考え方が変わったことはありますか。

コロナ禍で緊急事態宣言が出された令和3年の2~5月は活動休止を余儀なくされ、活動を再開後、久しぶりに会った若年性認知症の方が今までできていたことができなくなったことにショックを受けました。「人は誰かに支えられて生きている。人とのつながりが無くなってしまふことの代償は大きい。」と居場所の大切さを痛感し、「このような居場所はライフラインと同じで、絶対に活動を止めてはいけない。」と心に決めました。

■自分の好きなように過ごせる居場所づくりで大切にしていることは何ですか。

誰もが生きていく上で大切にしていることがいろいろあると思いますが、唯一無二なのが自分を偽ることなく自分らしくいられる「居場所」だと思います。そこに集う人たちと他愛もない話をして笑顔になったり、自分の役割を持って好きな活動を続けたり、思い思いの時間を過ごすことができる居場所があることが大事だと思います。これからも「集まってくる居場所」、「その人と何ができるのか」を大切に、活動を続けていきたいと思っています。